

# Soccer News Shiga

2018.9.30

**発行** (公社) 滋賀県サッカー協会  
**責任者** 専務理事 前田 康一  
 〒524-0212 滋賀県守山市服部町2439番地  
 TEL:077-585-0982 / FAX:077-585-0983  
 e-mail shiga@oregano.ocn.ne.jp  
 URL http://www.shigafa.com  
 印刷：スペース工房

## ワールドカップでの大活躍 ありがとう！！

### ～～乾選手に 県協会より 特別賞を授与～～



2018年6月に開催されたロシアワールドカップにおいて日本代表チームは戦前の予想以上の活躍をし、日本中がたいへん盛り上がりました。その中でも、本県出身の乾貴士選手は大会の重要な試合において貴重な得点を挙げ、一躍今大会のヒーローとなりました。そこで、本協会としても乾選手に対し、特別表彰を授与し、その成果を讃えることを理事会で決定しました。

特別賞は、大津絵の高橋松山先生と書家の秀蓮先生に、本協会の感謝の気持ちを表した額を特別に制作していただき、7月19日に琵琶湖ホテルで開催された野洲高校サッカー部後援会主催の記念祝賀会において、森津陽太郎会長より授与いたしました。



大津絵 書  
 なかはし 高橋 秀  
 しゅうざん 松山 蓮

## 2018年ロシアW-CUP 観戦記

(公社) 滋賀県サッカー協会 名誉会長 松田 保

初の東ヨーロッパ・社会主義国開催。テロ対策として、はじめて写真入りのFAN IDがビザ代わりに発行され、あらゆるところで厳重なIDチェックが実施された。

前回、圧倒的強さで4回目の優勝を果たしたドイツが予選リーグで敗退。アルゼンチン・スペイン・ポルトガル・ブラジル・ウルグアイの強豪も決勝トーナメント・二回戦で敗退。結局、試合巧者のフランスが2回目の優勝となり、人口450万人のクロアチアが準優勝した。



3位ベルギー・4位イングランド、人口35万のアイスランドがヨーロッパ予選の激戦区を勝ち抜くなど、育成年代からの一貫指導の成果が顕著に成績に反映された大会となった。

日本のベスト16入りと滋賀県出身の乾(ベティス)の大活躍は、日本国民と滋賀県民に大きな誇りと感動を与えてくれた。

### 観戦報告

6月24日(日) グループH第2節 エカテリンブルクアリーナ・20時キックオフ  
**日本(2-2) セネガル**

FIFAランキング61位の日本と27位のセネガル(総年俸日本の約2倍)の戦い。旧仏領セネガルの育成は世界トップクラスで、高い身体能力と個人技を持つ、マネ(リバプール)やエムバイエ(ACミラン)など殆どの選手がヨーロッパのトップリーグで活躍している

日本の攻守の要の一人、長友(ガラダサライ)でさえ1対1で翻弄される能力の差があったが、日本は乾や本田の見事な得点で同点に追いつき引き分けた。第2節終了時で勝ち点・得失点差でセネガルと並んだが、フェアプレーポイント(今大会から採用)で日本が上回り、グループ1位となる。MF柴崎の攻守に滲刺とした活躍など、日本チームは試合毎に進化し、次のFIFAランキング8位の強豪ポーランド(2連敗し予選敗退が決まった)戦への期待が膨らんだ。



6月28日(木) グループH第3節 ボルゴグラードアリーナ・17時キックオフ  
**日本(0-1) ポーランド**

FIFAランキング61位の日本と8位のポーランド(総年俸日本の約2倍)の戦い。何故か第1節・2節から先発メンバーを6人変え、ポーランド戦に挑む。ブンデスリーグ得点王のレバンドフスキー(バイエルンミュンヘン)を擁する格上ポーランドを攻めあぐむ。一方、ポーランドは鋭いカウンターアタックで何度も得点機をつくるが、GK川島が前節とは別人のように活躍して、ピンチを凌いだ。後半14分リスタートからヘディングで先取点を決められる。ラスト10分、負けている日本が攻めないサッカーには多くの批判があった。全て監督が責任を負う決断だが、現状分析が疎かになれば、全ての進歩を止めてしまいかねない。次のFIFAランキング3位のベルギー戦で、今大会の日本と西野監督の真価が問われることになる。

## 滋賀県サッカー協会会長就任に寄せて

(公社) 滋賀県サッカー協会 会長 森津 陽太郎

今年(2018年)の6月は、ロシアで開催されたワールドカップの話題で盛り上がりました。直前の監督交代劇など、サッカーに関係しているものは誰もが大丈夫なのかと心配をしたものです。しかし、予想を覆し、ベスト16、惜しくも決勝トーナメント1回戦で敗れるという結果でした。滋賀県サッカー協会としても大変うれしい状況がありました。野洲高校出身の乾貴士選手の素晴らしい活躍です。その活躍は日本のベスト16進出の立役者でもありました。滋賀県サッカー協会としても、その活躍は滋賀県民に感動と勇気や希望を与えてくれたと特別賞を授与させていただきました。

滋賀県サッカー界の現状は、Jリーグに加盟するチームがないこと。また、Jリーグをはじめとする大きな大会を開催できるサッカースタジアムがないこと等、大変残念な状況であります。しかし、一方で、選手の育成については全国的にも一定の評価を得ています。乾選手の活躍もその結果の表れだと自負しています。

2024年には滋賀県で2巡目の国体が開催されます。そのこともあり、滋賀県サッカー協会では「SFAビジョン」を策定いたしました。「サッカー競技の普及、発展を図ると共に、県民の豊かなスポーツ文化の振興、心身の健全な発達に寄与する。」という理念のもと、サッカーの普及、サッカーファミリーの拡大、スポーツ文化を振興する環境づくり、選手の育成強化、日本で活躍するチーム・選手の輩出などをビジョンとして掲げています。そのビジョンに向けても、Jリーグに参入できるチームやスタジアム問題は大きな課題です。前会長、松田保氏がいつも言葉にされていた「産官学民が一体となってこの課題を解決する」取り組みを継続していきたいと思っています。また、2024年に向けては、各種別連盟が強化策を進めているところです。2024年に選手として活躍できる年代の強化はもちろん、この取り組みが滋賀県サッカーの普及発展につながっていくような仕組みをしっかりと作ることも大事なところで

す。今、幼児を対象としたキッズプログラムは活発な活動を続けています。そういった意味でも「育成県」としての強みをさらに発展させていきたいと思っています。

最後に、サッカーが県民に愛されるためにも、ビジョンの最後に掲げている「常にフェアプレーの精神を持ち、国内や世界の人々と友好を深め、広く社会に貢献する。」は大事なこととして取り組みを進めたいと思います。



### 平成30年度 公益社団法人 滋賀県サッカー協会 役員

名誉会長	松田 保	● 理 事	石田 和成	吉田 和弘
会 長	森津 陽太郎	●	藤本 計之	大谷 浩司
顧問	豊田 一成 皆木 滋男	●	杉本 聡	鳥家 浩志
	奥村 弘 松井 博史	●	梅田 英幸	福島 隆志
	中村 和敏	●	邵 啓全	川越 洋一
副会長	藤澤 輝彦 中島 浩之	●	奥田 援史	
	岩崎 崇	● 特任理事	二之湯 武史	河本 英典
専務理事	前田 康一	●	権田 五仁	望月 聡
理 事	光吉 英宣 増田 一博	● 難・加71委員	村井 滋一	
	雨森 康 野崎 源市	●	増田 義行	橋本 猛秀
	瀬古 正志 泉 憲舟	●		

### JFAP<sup>®</sup>-モントカップ<sup>®</sup> 第28回全日本U-12フットサル選手権大会を終えて

ROOTS FUTSAL CLUB 監督 前田 吉弘

#### JFAパーモントカップ第28回全日本U-12フットサル選手権大会 **ベスト8**



JFAパーモントカップ第28回全日本U-12フットサル選手権大会滋賀県予選で優勝を飾り2年連続2回目の本大会出場を決めることができました。一番は子供たちの頑張りですが、対戦いただいた多くのチーム、関係者、保護者様のご理解ご協力があったからこそ感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



さて、結果から申し上げますと、全国約3,500チーム以上、約5万人以上の子供たちが参加したパーモントカップにおいて全国ベスト8という素晴らしい成績を収めてくれました。滋賀県勢としては過去に3度決勝トーナメント進出があるのみで、ベスト8は2000年に開催された第10回大会以来の快挙となります。

全国大会は8月17日から19日にわたり、東京の駒沢オリンピック公園屋内球技場および体育館で行われました。開会式前日の16日より東京入りし、東村山市にあります東村山市民スポーツセンターにてパーモントカップ佐賀県代表のソルニーニョ FC、関東1部リーグのZOTT WASADAの下部組織とトレーニングマッチを行い翌日の本戦に備えました。

17日の開会式は駒沢オリンピック公園体育館で行われました。目標にしてきた大会、夢に描いた舞台、47都道府県が集まる開会式、勝ち抜いたチーム、選手たちのみが踏み入れることのできるアリーナ、最高の舞台でした。

予選初戦は、静岡県代表、昨年の日本一ピヴォ(今大会ベスト16)。以前より交流のあるピヴォは、お互いに手の内を知るだけに、予選初戦が最大の山場というんな事を想定し、試合映像も手に入れ対策等準備をしてきました。前半開始早々に先制し、試合の主導権を握るも、幾度とある決定機を決めきれず、逆にイージーミスから失点し、前半を1対1で折り返しました。後半立ち上がりにもまたもイージーミスから失点、相手にペースを掴まれ連続失点し、終わってみれば2対5と初戦を落としてしまいました。初戦のピヴォ戦に多くの時間を割いてきただけに手痛い敗戦となりました。子供たちもこの1戦に照準を合わせてきただけに、落胆し涙する者もいたが、ただまだ予選は終わりではなく残り2試合を大量得点で勝利し、ワイルドカードでの決勝トーナメント進出を目指そうと気持ちを切り替えさせました。予選二戦目、福井県代表、春江町サッカー少年団。8対2で勝利し翌日の予選三戦目に望みを託しました。予選三戦目、徳島県代表リベルテSC。1勝1敗なので、ワイルドカードでの決勝進出には、1点でも多く得点を決め勝

つことが条件でした。試合開始早々からチャンスを何度も作るが焦りからか得点が奪えず、決定機もポストに当て弾かれてしまう。こういう悪い流れの時はチャンスが相手にいってしまい、カウンターから先制され、ますます慌てました。大量得点が必要な試合、前半残り3分で0対1とピハインドで嫌な流れを変えるために、タイムアウトで子供たちを落ち着かせ、戦術の確認をおこなった。これが功を奏して、タイムアウト後直ぐに同点とし、その後得点を重ね、終わってみれば9対1の快勝でした。結果、ワイルドカード1位で、目標としてきた決勝トーナメント進出を決めました。

決勝トーナメント初戦、予選を3戦全勝で勝ち上がった宮城県代表アバンツァーレ仙台。昨年予選敗退時、ベスト8に進出し、三日目まで試合のできるチーム作りへと強く誓った思いを実現できる時がきた。対戦相手のスカウティング、情報収集でしっかり対策をたてられ、試合は12対5と圧勝し、ベスト8に進出できました。

準々決勝、石川県代表、旭丘FC(今大会3位)。勝てばベスト4と大きく歴史を変えられる一戦でした。相手チームは身長160cm代の選手が数名いるパワフルなチームで、前半先制するも直ぐに追いつかれ、直ぐに引き離すもまた追いつかれる。前半残り50秒でタイムアウトをとり、戦術の確認をし、残り30秒でゴールを奪い、前半を3対2で折り返すことができた。ここまでROOTSのペースで試合を運ぶことができ、後半も次の1点が非常に大事になってくることを子供たちには伝え送り出した。後半は一進一退の攻防で、こういうゲームはワンプレーが試合の行方を変えることを幾度となく見てきたが・・・残り5分、相手コーナーキックがポストに当たり、相手選手に当たってゴールに吸い込まれる不運な失点。同点に追いついたことで、それまで抑え込んでいた相手エースが勢いづき、勝ち越しゴールを決められてしまう。同点に追いつこうと前がかりになったところでクリアランスのミスから失点し、万事休す。3対5でROOTS FUTSAL CLUBのチャレンジは幕を閉じました。

目標にしていた決勝トーナメントに進出を果たし、更にベスト8まで連れてきてくれた子供たちの涙を見た時、私も涙が止まりませんでした。本当によく頑張った、ありがとうのことばしか見つかりませんでした。

フットサルの大会で、フットサルチームがサッカーチームに負けるわけにはいかないと、これからもフットサルの普及、育成、またこのジュニア年代でのフットサル活動がこれからのフットボール人生において非常に有意義であることを広めていきたいと考えております。

最後になりましたが、日頃から応援していただいている皆様、また、本大会に向けてご支援いただきましたチームスポンサー様、関係各位の皆様には様々なご支援ご声援賜りました事を厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。



### 第33回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会を終えて

MIOびわこ滋賀U-15 監督 外田 貴之

第33回クラブユースサッカー選手権(U-15)大会に関西代表(7チーム)として出場いたしました。8/15(水)から、北海道帯広市で開催されグループリーグでは、清水エスパルスに1-3で負け、横浜マリノスに0-0の引き分け、バイエルン ツネインに2-2の引き分け、1敗2分でグループ3位となりノックアウトステージには進出することは出来ませんでした。バイエルン戦は、アディショナルタイム1分で追いつかれ、初勝利とノックアウトステージ進出を逃しました。結果的には、勝ち点3でノックアウトステージに進出できたので、悪夢の1分間になってしまいました。



私は、全国大会に出場できた要因は二つあると考えます。今年はサンライズリーグに所属し3月から関西のトップレベルのチームと毎週試合を重ねてきました。成績は現在12チーム中11位と良い成績ではありませんが、サンライズリーグでの経験が大きいのと思います。何がと言いますと、プレーのスピード、球際の強さ、パスの精度、個での打開力、最初はこれらすべてに差を感じました。しかし、これらを毎週サンライズリーグで、肌で感じる事ができ、そのスピードや強さが日常(あたりまえ)になったことだと考えます。もう一つは、その日常によって成長したことで、勝つ試合も出てきました。勝てば自信も出てきます。今まで関西のトップレベルのチームやJ下部のチームにのまれた試合をしていたのが、堂々と闘えるメンタルになっていったことです。この二つがサンライズリーグで養われたことで全国大会に出場できたのだと思います。全国大会でも名前負けせずに堂々と闘う選手達の姿をたくましく感じました。

選手達には、この貴重な経験を今後活かしてほしいと思います。我々もこれからこの日常を継続できるよう指導し、今度はこの舞台で勝利できるよう成長していきたいと思っています。最後になりましたが、関係者の皆様にはたくさんの激励をいただきました事を心よりお礼申し上げます。

### インターハイを終えて

草津東高等学校 監督 牛場 哲郎

我々草津東高校サッカー部は、平成30年度全国高等学校総合体育大会(翔べ誰よりも高く東海の空へ)男子サッカー競技に3年ぶり13回目の出場となりました。

昨年度、全国高校サッカー選手権大会に出場を果たし、前回覇者(2016年)青森山田と対戦し、結果は完敗、自分たちの力不足を思い知らされる結果となりました。その時のメンバーが複数残る中、今年のチームは「全国の舞台で勝利を!」を合言葉にチーム力強化に取り組んできました。そして今大会の県予選では、均衡した試合を勝ち上がり、優勝することができました。



インターハイ1回戦の対戦相手は山口県代表高川学園。中国プリンスリーグでも3位と好調な相手に試合開始早々、自陣に押し込まれる展開となりました。高川学園のテンポ良いパス回しとロングボールを組み合わせた攻撃に、ボールの奪いどころを見出せませんでした。押し込まれた流れの中で、飲水前に相手コーナーキックから失点してしまいました。飲水を挟み、守備でのボールの奪いどころを変更し、ボールを奪える回数が増え、それにより徐々にペースを掴み、攻撃に

転じる機会も増えましたが、0-1で前半を終えました。

ハーフタイムで、攻撃の選手を交代し、後半に逆転を狙う攻撃的な布陣を引きました。決定的なシュートチャンスも増え、得点の気配が高まっていましたが、自陣でボールを失い、相手のショートカウンターから失点しました。0-2となり苦しい展開でしたが、選手たちは諦めず、ゴールを目指しました。後半アディショナルタイムとなる70+1分に相手クリアのこぼれ球を山本がワンタッチで振り抜き、1点を返しました。後半の相手シュート数は失点した1本に対して、我々は12本のシュートを打ち、攻勢を強めました。ポストに嫌われたり、相手GKに阻まれたりと、同点に追いつくことができませんでした。結果は草津東1-2(0-1、1-1)高川学園で1回戦敗退となりました。

今回、全国大会で勝ち上がる難しさを痛感し、立ち上がりで試合の主導権を取れなかったことが悔やまれる結果となりました。試合の中で対応しながらの戦いにはチームの可能性を感じましたが、両ゴール前の強さに欠ける点で相手チームに分があったと思います。3年生を中心に今大会での経験を糧に、冬の全国高校サッカー選手権大会へ向けて結束を固め、今年こそ全国の舞台で勝利を勝ち取れるようにしたいと思います。

最後に、「2018彩る感動 東海総体」のサッカー競技は三重交通Gスポーツの杜鈴鹿サッカー場で開催され、隣県ということもあり、試合にはたくさんの方が応援に来てくださいました。ホームタウンのような雰囲気の中で試合ができたことを感謝しております。また、滋賀県サッカー協会をはじめ、滋賀県競技力対策本部、滋賀県高体連サッカー専門部などからも試合に臨むにあたり、激励をいただき誠にありがとうございました。今後も2024年滋賀県国体に向けての強化拠点校としての自覚を持って、チームとして精進していきたいと思っています。

### JFA第5回全日本U-18フットサル選手権大会を終えて

滋賀県立野洲高等学校サッカー部 顧問 武村 駿

JFA第5回全日本U-18フットサル選手権大会に関西第一代表として出場いたしました。各地域代表16チームを4グループに分けた1次ラウンドでは、開催地代表の聖和学園サッカー部FC、中国地域代表の岡山県立作陽高校、九州地域代表の飯塚高校と同じAグループに入りました。8月2日に行われた第1試合の対戦校は作陽高校でした。結果は0-4で敗れ、同日の第2試合では聖和FCに1-7で敗れました。初日を終えた時点で聖和FCと作陽高校が勝ち点6を取りAグループ代表の上位2チームが確定しました。大会2日目、何とか1勝という気持ちで臨んだ試合でしたが3-5で飯塚高校に敗れ今大会を終えました。大会結果

は1次ラウンド敗退で終わりましたが、サッカーの練習とフットサルの練習を両立し、限られた練習時間の中で全国大会まで出場できたことを嬉しく思います。

今大会で感じたことは、やはり戦術理解の面で差があったということです。特にセットプレーや選手交代のタイミングについては、サッカーとは違うフットサル独自の戦術が必要であることを実感しました。また、攻撃のパターンや組織的な守備など戦術としての課題を実感した大会でした。来年度は今大会での経験を活かし、練習時間の確保と戦術の共通理解を課題にチームの強化に貢献したいと思います。

最後になりましたが、多くの皆様よりご支援、ご声援をいただきありがとうございました。

